

## 商工会議所 L O B O ( 早期景気観測 )

- - 平成 1 6 年 8 月調査結果 - -

( 平成 1 6 年 9 月 2 日 )

調査期間：平成 1 6 年 8 月 2 0 日 ~ 2 6 日

調査対象：全国の 4 0 3 商工会議所が 2 5 8 9 業種組合等にヒアリング  
( 内訳 ) 建設業 3 8 3 製造業 6 2 5 卸売業 2 3 3  
小売業 7 3 9 サービス業 6 0 9

調査項目：今月の売上・採算・業況等についての状況 ( D I 値を集計 )  
及び、業界として当面する問題等

### D I 値について

D I 値は、売上・採算・業況などの各項目についての、判断の状況を表す。ゼロを基準として、プラスの値で景気の上向き傾向を表す回答の割合が多いことを示し、マイナスの値で景気の下向き傾向を表す回答の割合が多いことを示す。したがって、売上高などの実数値の上昇率を示すものではなく、強気・弱気などの景気感の相対的な広がりを意味する。

D I = ( 増加・好転などの回答割合 ) - ( 減少・悪化などの回答割合 )  
業況・採算 : ( 好転 ) - ( 悪化 )      売上 : ( 増加 ) - ( 減少 )

日本商工会議所

本件担当：産業政策部 TEL: 0 3 - 3 2 8 3 - 7 8 4 3  
E-Mail: sangyo@jcci.or.jp

なお、本調査結果は日商ホームページ( <http://www.jcci.or.jp> )でもご覧になれます。

## 【平成16年8月調査結果のポイント】

### 業況DIはマイナス幅が拡大し、再び足踏み

8月の景況をみると、全産業合計の業況DI（前年同月比ベース、以下同じ）は、前月水準（25.7）よりマイナス幅が1.7ポイント拡大して27.4となり、2カ月ぶりにマイナス幅が拡大した。

業種別の業況DIは、建設を除く4業種でマイナス幅が拡大したため、全産業合計の業況DIもマイナス幅が拡大した。引き続き各業種で業況は好調との声はあるものの、業種間、企業間の格差も大きい。景気の先行きについても、回復に期待するとの声の一方、依然として消費の低迷や、公共事業の縮小、原油、素材価格の高騰による仕入れコスト上昇などの不安材料を訴える声が寄せられている。

【建設業】では、「土木工事を中心に現在のところ活況を呈している」（一般工事）、「前年同月には市町村合併の関係で公共工事はほとんどなかったが、合併も済み、工事も増加しており、しばらくはやや上向きの見込み」（一般工事）といった声の一方、「公共、民間工事とも少なく、受注競争が激しいため原価割れをまねき、業界として危機的状況」（一般工事）との声や、「特に石油関連資材と鋼材価格が上昇しており、悪影響が出ている」（一般工事）と仕入れコスト上昇を訴える声が寄せられている。

【製造業】では、「市場全体としてはオリンピック特需が終了し、年末商戦に向け増産が始まっている」（電子部品）と、引き続き業況は好調との声の一方、「基調的には変化はないが、先行き見通しについて労働力不足、仕入れコスト上昇、採算悪化など、不透明感を訴える企業が散見される」（金属加工機械）、「中国向け輸出の先行受注に減少が見え始めた」（繊維機械）といった声が寄せられている。

【卸売業】では、「猛暑でジュース類の売上が増加」（食料、飲料）との声はあるものの、「飲料関係はよく動いたが、全体的には不振」（食料、飲料）、「売上は横ばいだが競争の激化から採算面が改善しない」（農畜産水産物）といった声のほか、「原油価格の高騰により仕入れ値が上昇したが、販売価格に転嫁できず採算が悪化している」（建築材）と、仕入れコスト上昇の影響を訴える声が寄せられている。

【小売業】では、「食料品、衣料品、電化製品等夏の定番品がよく売れ、オリンピック効果でテレビも好調」（百貨店）との声の一方、「行楽、帰省客のお土産、バーベキュー商材、果物等は気温上昇により売上が前年同月を上回ったが、8月前半までの好調さの反動か、中旬から夏物衣料の売上が失速」（百貨店）、「客数は増加に転じたが、単価の低下が依然続いており、収益の回復には至っていない」（百貨店）といった声が寄せられている。

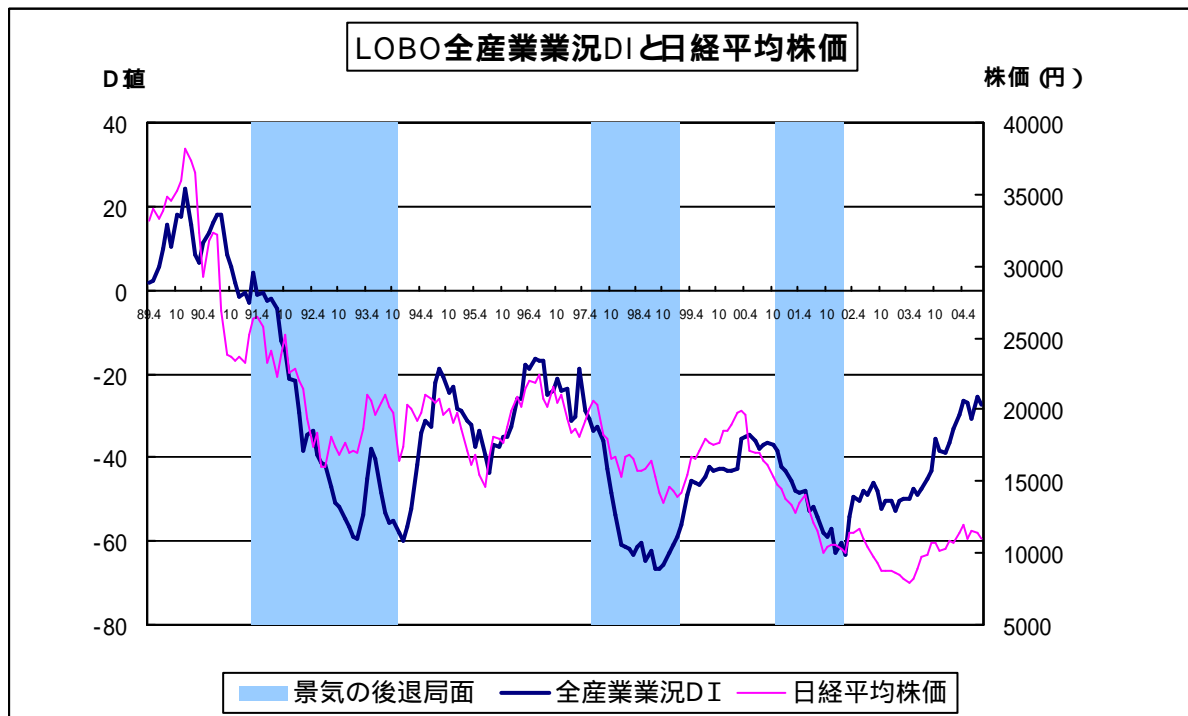
【サービス業】では、「企業関係の需要が若干増加してきた」（旅館）との声の一方、「各個店の売上に下げ止まりの兆しがあったが、やはり下落基調で夏季商戦も不調に終わった」（喫茶店）、「景気回復と言われているが、いまだ回復の兆候は見られず、客足も伸びない状況」（バー、飲食店等）といった声や、「猛暑の影響で昼間の客数が著しく減少し、客単価も減少。二度にわたる台風接近も影響」（スポーツ施設）と天候の影響を訴える声が寄せられている。

売上面では、DI値のマイナス幅は建設を除く4業種で拡大したため、全産業合計の売上DIは3.0ポイント拡大して23.2となり、2カ月ぶりにマイナス幅が拡大した。

採算面では、DI値のマイナス幅は建設、サービスを除く3業種で拡大したため、全産業合計の採算DIは2.6ポイント拡大して28.8となり、2カ月ぶりにマイナス幅が拡大した。

向こう3カ月(9月~11月)の先行き見通しについては、全産業合計の業況DI(今月比ベース)が23.5と、昨年同時期の先行き見通し(36.6)と比べて改善している。

景気に関する声、当面する問題としては、引き続き各業種から業況は好調との声や、猛暑の影響により売上増といった声の一方、公共事業の縮小や消費の低迷などを訴える声が依然として寄せられており、原油、素材価格の高騰による仕入コストの上昇に関するコメントも多く見られた。



【業況についての判断】

8月の景況をみると、全産業合計の業況DI（前年同月比ベース、以下同じ）は、前月水準（ 25.7 ）よりマイナス幅が1.7ポイント拡大して 27.4となり、2カ月ぶりにマイナス幅が拡大した。

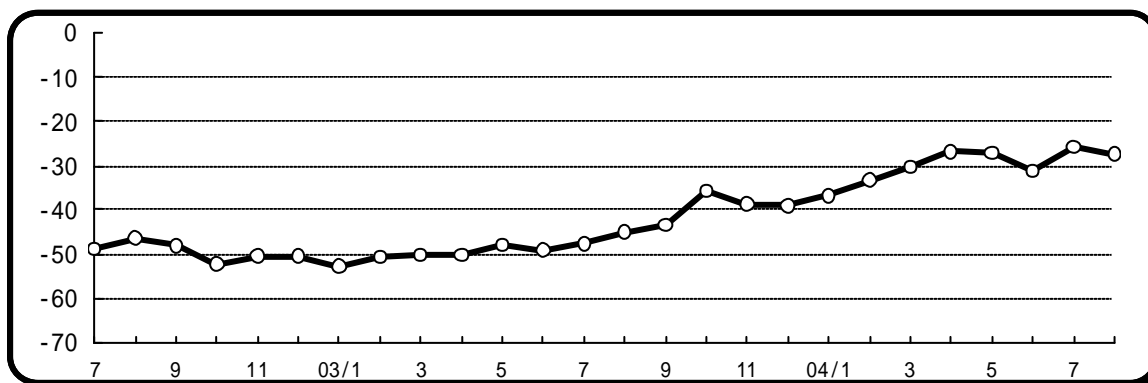
向こう3カ月（9月～11月）の先行き見通しについては、全産業合計の業況DI（今月比ベース）が 23.5と、昨年同時期の先行き見通し（ 36.6 ）に比べて改善している。

業況DI（前年同月比）の推移

	16年 3月	4月	5月	6月	7月	8月	先行き見通し 9～11月
全産業	30.2	26.8	27.1	31.1	25.7	27.4	23.5 ( 36.6 )
建設	54.8	50.4	49.1	55.0	49.1	43.7	43.5 ( 51.6 )
製造	14.9	14.6	9.1	17.8	8.5	14.6	13.3 ( 27.9 )
卸売	31.3	26.8	29.6	26.4	28.0	33.7	22.4 ( 35.9 )
小売	31.7	27.7	35.3	35.9	30.0	31.5	23.8 ( 37.4 )
サービス	27.9	23.4	21.2	25.0	22.2	22.4	20.8 ( 35.1 )

「先行き見通し」は当月に比した向こう3カ月の先行き見通しDI  
( )内は昨年8月の先行き見通しDI <以下同じ>

《業況DI（全産業・前年同月比）の推移》



【売上（受注・出荷）の状況についての判断】

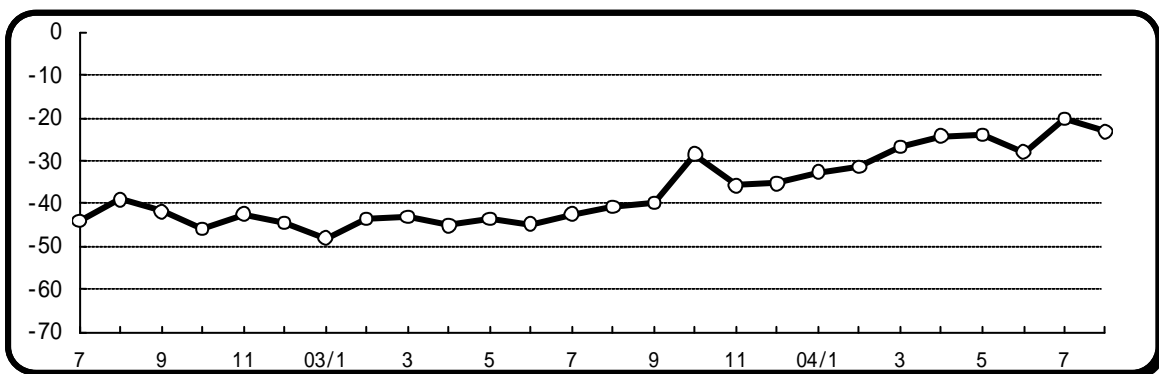
売上面では、D I 値のマイナス幅は建設を除く4業種で拡大したため、全産業合計の売上D I は3.0ポイント拡大して 23.2 となり、2カ月ぶりにマイナス幅が拡大した。

向こう3カ月(9月～11月)の先行き見通しについては、全産業合計の売上D I (今月比ベース)が 20.8 と、昨年同時期の先行き見通し( 30.6 )に比べて改善している。

売上（受注・出荷）D I（前年同月比）の推移

	16年 3月	4月	5月	6月	7月	8月	先行き見通し 9～11月
全産業	26.7	24.3	23.9	28.0	20.2	23.2	20.8 ( 30.6)
建設	49.3	46.7	41.5	42.1	44.6	38.8	34.7 ( 42.4)
製造	12.8	3.3	0.9	7.8	0.4	8.1	8.8 ( 20.6)
卸売	24.1	26.8	27.7	30.1	20.1	29.5	17.6 ( 24.6)
小売	30.0	29.5	36.7	38.3	25.8	28.2	27.7 ( 33.1)
サービス	23.3	24.8	22.2	26.9	19.1	20.0	16.7 ( 32.8)

《売上（受注・出荷）D I（全産業・前年同月比）の推移》



【採算の状況についての判断】

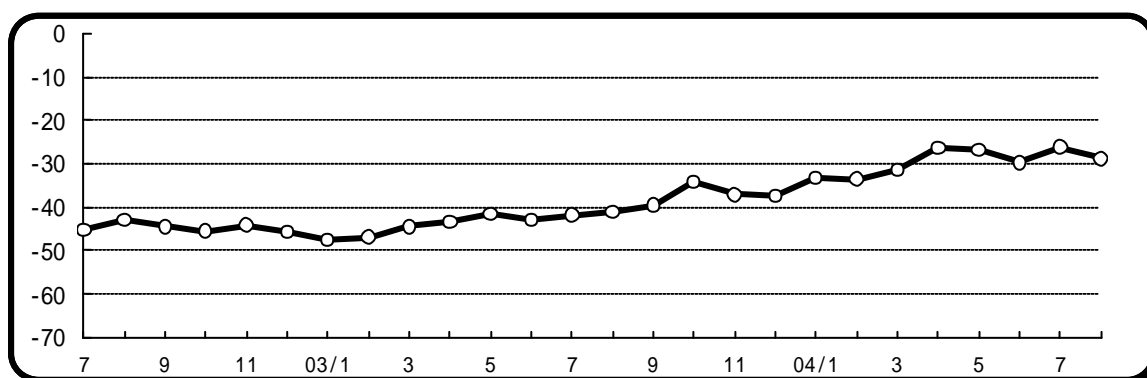
採算面では、D I 値のマイナス幅は建設、サービスを除く3業種で拡大したため、全産業合計の採算D I は2.6ポイント拡大して 28.8となり、2カ月ぶりにマイナス幅が拡大した。

向こう3カ月(9月～11月)の先行き見通しについては、全産業合計の採算D I (今月比ベース)が 23.0と、昨年同時期の先行き見通し( 31.1)に比べて改善している。

採算D I (前年同月比)の推移

	16年 3月	4月	5月	6月	7月	8月	先行き見通し 9～11月
全産業	31.4	26.3	26.9	29.7	26.2	28.8	23.0 ( 31.1)
建設	52.7	49.4	49.1	52.9	52.1	45.5	43.2 ( 45.6)
製造	24.9	17.6	15.0	21.9	17.1	23.8	20.6 ( 24.8)
卸売	28.3	20.4	28.9	23.9	21.3	31.3	16.4 ( 25.7)
小売	27.2	22.9	27.5	28.1	22.8	28.1	19.8 ( 27.4)
サービス	30.4	26.8	23.6	26.7	24.7	22.6	18.4 ( 35.1)

《採算D I (全産業・前年同月比)の推移》



(参考)

資金繰りD I (前年同月比)の推移

	16年 3月	4月	5月	6月	7月	8月	先行き見通し 9~11月
全産業	26.5	21.1	21.6	22.8	20.5	20.0	18.3 ( 26.6)
建設	46.6	35.4	37.9	37.5	40.8	36.5	36.4 ( 45.7)
製造	21.9	21.0	14.8	18.6	14.7	16.2	13.8 ( 22.4)
卸売	22.6	19.2	23.3	23.1	14.2	16.8	15.3 ( 22.2)
小売	21.2	14.2	17.2	18.2	17.4	16.0	14.4 ( 20.5)
サービス	24.3	19.3	22.0	21.2	17.7	17.3	16.6 ( 27.0)

D I = (好転の回答割合) - (悪化の回答割合)

【前年同月比D I】製造、卸売を除く3業種で悪化超感が弱まったため、全産業合計でも2カ月連続で弱まる。

【先行き見通しD I】全業種で昨年同時期に比べて悪化超感が弱まり、全産業合計でも弱まる見通し。

仕入単価D I (前年同月比)の推移

	16年 3月	4月	5月	6月	7月	8月	先行き見通し 9~11月
全産業	10.8	13.3	14.7	15.9	15.1	14.1	13.4 ( 5.5)
建設	12.2	20.8	22.4	27.2	24.1	21.5	23.0 ( 3.2)
製造	26.2	30.3	30.0	31.9	32.1	31.2	25.3 ( 10.4)
卸売	10.3	9.6	9.4	9.3	12.3	6.0	7.9 ( 7.8)
小売	1.0	0.8	1.4	1.6	1.8	2.7	1.0 ( 0.8)
サービス	7.5	9.1	11.0	11.4	7.9	8.2	11.9 ( 6.4)

D I = (下落の回答割合) - (上昇の回答割合)

【前年同月比D I】小売、サービスを除く3業種で上昇超感が弱まったため、全産業合計でも2カ月連続で弱まる。

【先行き見通しD I】全業種で昨年同時期に比べて上昇超感が強まり、全産業合計でも強まる見通し。

従業員 D I (前年同月比) の推移

	16年 3月	4月	5月	6月	7月	8月	先行き見通し 9～11月
全産業	8.0	7.6	8.6	7.5	6.2	6.2	7.0 ( 11.7)
建設	26.8	30.8	29.9	27.4	27.6	25.6	20.6 ( 25.2)
製造	6.0	9.2	5.3	6.0	3.6	6.2	8.4 ( 17.2)
卸売	11.4	10.8	11.9	10.4	6.7	7.2	6.0 ( 11.4)
小売	2.7	0.2	3.0	1.2	1.0	0.8	1.5 ( 4.2)
サービス	2.3	1.0	3.5	2.2	0.5	1.2	3.1 ( 5.2)

$$D I = ( \text{不足の回答割合} ) - ( \text{過剰の回答割合} )$$

【前年同月比 D I】建設、小売で過剰超感が弱まり、他の 3 業種では過剰超感が強まったが、全産業合計では横ばいとなる。

【先行き見通し D I】全業種で昨年同時期に比べて過剰超感が弱まり、全産業合計でも弱まる見通し。



## 【平成16年8月の景気キーワード】

### 回復への動き

引き続き各業種から、業況の改善と先行きに期待する声が寄せられており、建設、製造からは「大口工事の受注も若干増加しているように感じられ、全体的な需要の増加に伴い業界内の過当競争が、やや緩和傾向に向かいつつあると判断している」（北九州・電気工事）「中国の景気引き締め策の影響からか、建設機械関連に多少の落ち込みが出ているが、全体としては好調を維持」（下館・金物類製造）「大手、中小ともに設備投資が増えている」（恵那・加工紙製造）と、引き続き好調との声が寄せられている。卸売、小売、サービスからは、「お盆対応も一段落したところで、近郊産地からは梨の出荷も始まり、市場全体が活気づいてきている」（石岡・食料、飲料卸売）「小型車の売れ行きは一部ディーラーを除き好調で、今後、中型車への波及を期待」（釧路・自動車小売）「派遣社員の依頼が増えてきているが、派遣するスタッフが不足している状態」（京都・人材派遣）といった声が寄せられている。

### 景況感格差

景気の現状と見通しについて、改善の動きとの声の一方、不安材料を訴える声も多く、依然として景況感の格差が広がっている。「公共事業の減少と民間需要の伸び悩みで、厳しい状況が続いている」（札幌・一般工事）「デジカメ、VTR等、一部製品にかげり」（小千谷・電気機器製造）「法人関係のギフトと外販関係の高額品等が低調で、回復の兆しはない」（鹿児島・百貨店）といった声のほか、「鋼材等の材料が値上がりしている」（能代・金属加工機械製造）「原材料は値上がりしているが、販売価格への転嫁は依然厳しい」（岐阜・プラスチック製品製造）と、引き続き各業種から仕入コストの上昇を訴える声が寄せられている。また、アテネオリンピック開催の影響について、「五輪効果でAV商品の売上が拡大」（京都・百貨店）との声はあるものの、「自宅でのテレビ観戦で客足が遠のいている」（中津川・旅館）「五輪開催期間中は入店客が減少」（一宮・百貨店）といった声が寄せられている。

### 天候の影響

各地から、猛暑とたび重なる台風の影響について、「猛暑による清涼飲料水のボトルラベルの特別注文で売上増」（伊那・印刷業）「夏物は好調だったが、秋冬物の受注が低調」（和歌山・ニット生地製造）「瓶、缶ものの売上は伸びたが、他の食品は今ひとつ」（柏・各種商品卸売）「海、プールに客が流れ、夏物衣料は好調だったが、映画、ゲーム、飲食が不振」（北上・百貨店）「暑さの影響で全体的に短くカットする客が多く、来店サイクルがその分延びるため、売上増にはつながらない」（会津喜多方・理容）との声や、「台風の影響で売上減少」（明石・百貨店）「台風の影響と前年と比較し盆が短かったため、飲食店を中心に売上を落としている」（下関・商店街）といった声が寄せられている。

## 【景気キーワードの推移】

年	月	景気キーワード		
16年	6月	回復への動き	景況感格差	仕入コスト上昇
	7月	回復への動き	景況感格差	猛暑の影響
	8月	回復への動き	景況感格差	天候の影響

景気キーワードは、調査対象組合の各月におけるトピック・関心事項などに関しての自由回答をまとめたもの。

【産業別概況】

産 業	概 況
建 設	業況、採算D Iは2カ月連続、売上D Iは3カ月ぶりにマイナス幅が縮小した。「土木工事を中心に現在のところ活況を呈している」(一般工事)、「前年同月には市町村合併の関係で公共工事はほとんどなかったが、合併も済み、工事も増加しており、しばらくはやや上向きの見込み」(一般工事)といった声の一方、「民間設備投資関係の工事は若干上向いてきているが、相変わらず受注単価の値下げ競争が激化している」(一般工事)、「公共、民間工事とも少なく、受注競争が激しいため原価割れをまねき、業界として危機的状況」(一般工事)との声や、「特に石油関連資材、鋼材価格が上昇しており、悪影響が出ている」(一般工事)と仕入コスト上昇を訴える声が寄せられている。
製 造	業況、売上、採算D Iとも、2カ月ぶりにマイナス幅が拡大した。「自動車向け、工作機械向けの軸受の受注が好調」(金属加工機械)、「市場全体としてはオリンピック特需が終了し、年末商戦に向け増産が始まっている」(電子部品)と、引き続き業況は好調との声の一方、「基調的には変化はないが、先行き見通しについて労働力不足、仕入コスト上昇、採算悪化など、不透明感を訴える企業が散見される」(金属加工機械)、「中国向け輸出の先行受注に減少が見え始めた」(繊維機械)、「中国、東南アジア等の海外から輸入される安価な家具との競合激化や、消費者のライフスタイルの変化によるニーズの多様化など、業界を取り巻く環境は依然厳しい」(家具)といった声が寄せられている。
卸 売	業況D Iは2カ月連続、売上D Iは2カ月ぶり、採算D Iは3カ月ぶりにマイナス幅が拡大した。「猛暑でジュース類の売上が増加」(食料、飲料)との声はあるものの、「飲料関係はよく動いたが、全体的には不振」(食料、飲料)、「売上は横ばいだが競争の激化から採算面が改善しない」(農畜産水産物)、「繊維、紙関係は依然として厳しい状況が続いている」(衣服、日用品)といった声のほか、「原油価格の高騰により仕入れ値が上昇したが、販売価格に転嫁できず採算が悪化している」(建築材)と、仕入コスト上昇の影響を訴える声が寄せられている。
小 売	業況、売上、採算D Iとも、2カ月ぶりにマイナス幅が拡大した。「食料品、衣料品、電化製品等夏の定番品がよく売れ、オリンピック効果でテレビも好調」(百貨店)との声の一方、「行楽、帰省客のお土産、バーベキュー商材、果物等は気温上昇により売上が前年同月を上回ったが、8月前半までの好調さからの反動か、中旬から夏物衣料の売上が失速」(百貨店)、「8月中旬までは衣料品を含め好調に推移したが、9月にかけて残暑が続くと、初秋物を含め若干苦戦が予想される」(百貨店)といった声や、「客数は増加に転じたが、単価の低下が依然続いており、収益の回復には至っていない」(百貨店)、「物価の下落が続く採算も悪化しており、フランチャイズ店でも退店が目立つ」(商店街)と、引き続き単価の下落を訴える声が寄せられている。
サービス	業況、売上D Iは2カ月ぶりにマイナス幅が拡大し、採算D Iは2カ月連続でマイナス幅が縮小した。「企業関係の需要が若干増加してきた」(旅館)、「暑さのせいか鰻の売上が好調」(飲食店)との声はあるものの、「各個店の売上に下げ止まりの兆しがあったが、やはり下落基調で夏季商戦も不調に終わった」(喫茶店)、「景気回復と言われているが、いまだ回復の兆候は見られず、客足も伸びない状況」(バー、飲食店等)といった声や、「猛暑の影響で昼間の客数が著しく減少し、客単価も減少。二度にわたる台風接近も影響」(スポーツ施設)と天候の影響を訴える声が寄せられている。

(参考)

【ブロック別概況】

ブロック別の業況D I（前年同月比ベース）は、北海道、東北、北陸信越を除く6ブロックでマイナス幅が拡大したため、全ブロック合計でも2カ月ぶりに拡大した。

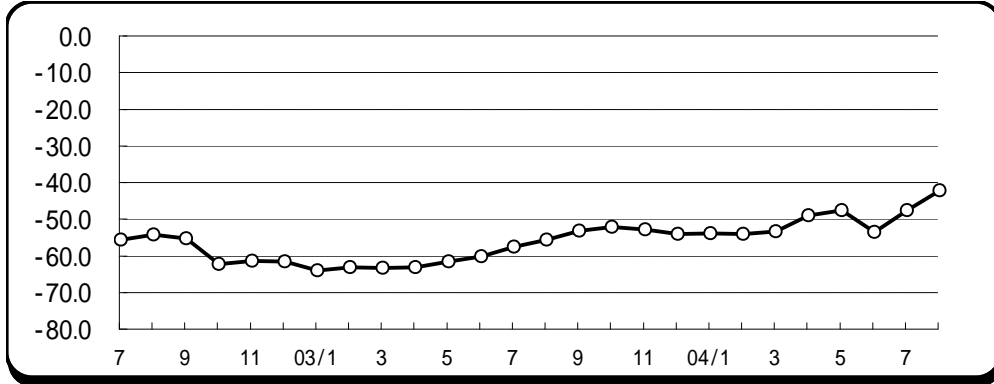
ブロック別の向こう3カ月（9月～11月）の業況の先行き見通しは、全ブロックで昨年同時期と比べて改善している。

ブロック別・全産業業況D I（前年同月比）の推移

	16年 3月	4月	5月	6月	7月	8月	先行き見通し 9～11月
全 国	30.2	26.8	27.1	31.1	25.7	27.4	23.5 ( 36.6)
北海道	36.2	23.4	28.0	31.8	28.7	28.1	20.2 ( 37.4)
東 北	33.5	36.7	33.1	36.0	31.1	30.7	33.1 ( 43.5)
北陸信越	24.6	28.5	25.3	27.5	27.4	22.0	19.9 ( 29.1)
関 東	27.5	20.6	23.8	29.0	22.1	23.0	18.9 ( 31.6)
東 海	31.6	27.1	23.0	28.0	18.8	24.3	19.2 ( 37.2)
近 畿	32.4	30.4	27.5	29.2	28.2	34.3	30.3 ( 37.4)
中 国	33.3	26.4	31.3	34.6	26.7	30.3	24.6 ( 42.8)
四 国	39.8	32.2	30.0	38.7	31.7	36.2	23.9 ( 41.6)
九 州	22.9	24.3	29.3	32.1	23.3	24.1	24.1 ( 39.0)

# 業況DI（前年同月比）の推移（全国）

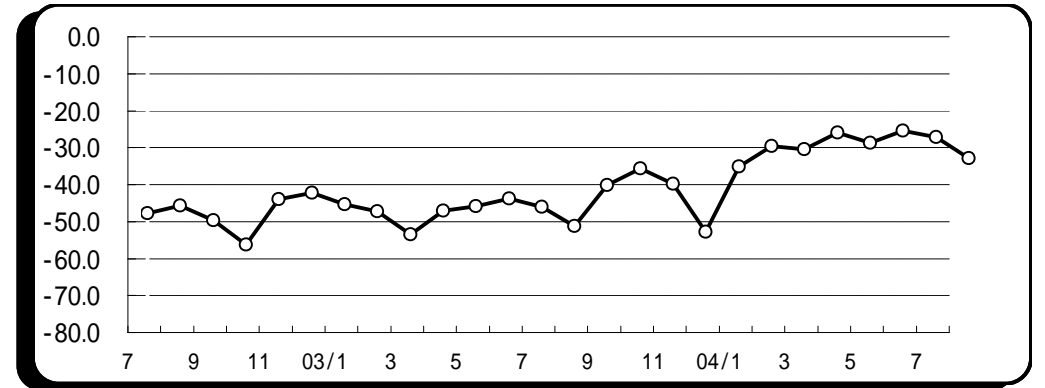
## 建設業



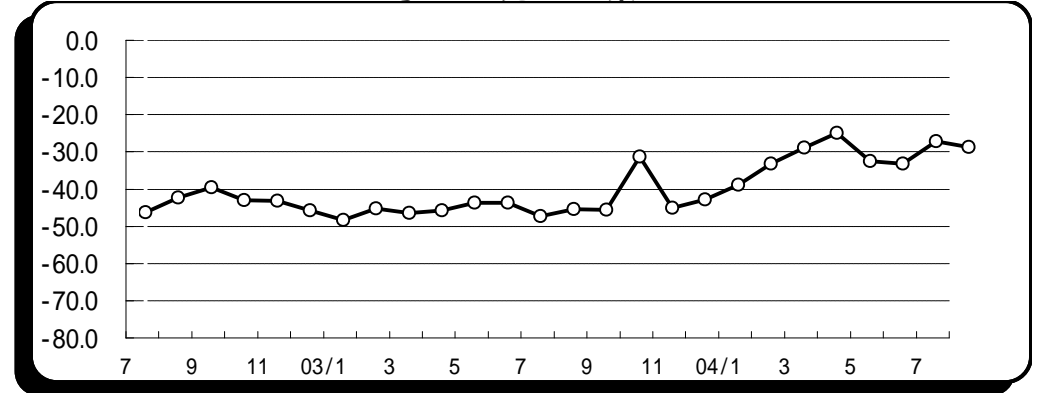
## 製造業



## 卸売業



## 小売業



## サービス業

